

熱分析システム



熱膨張計

- 材料の高温における物性として、熱膨張係数、融点、凝固点、分解温度、変態点などがあり、いずれも製品開発において重要な物性です。
- 熱膨張係数は、高温時における製品の变形および熱応力の発生などに関係しています。金属材料およびセラミックス材料などの熱膨張係数を測定する装置として、高温型熱膨張計(室温から1300℃)、および超高温型熱膨張計(300℃から1500℃)があります。
- また、融点、凝固点、分解温度などを調べる装置としてTG-DTAがあり、300℃から1500℃の温度範囲で重量変化(TG)と示差熱(DTA)を同時に測定することが可能です。

高温熱分析: TG-DTA2200, TD5020S, TAPS1000S、熱膨張計TD5020SA

- ・仕様 測定可能な温度範囲を説明文に記載しております。
- ・試料制限、特記事項 試料形状などに制限がありますので、事前に御相談をお願いいたします。
- ・依頼試験料金: 11,700円(室温から500℃まで)、16,500円(室温から1400℃まで)
- ・装置使用料金: 1日14,600円 (指導料別途要)
- ・問い合わせ先: 足立(2648)